校長先生と教頭先生が「小さな親切」を実演

地域で子どもの豊かな心を育む「小さな親切」の授業

6月15日、**さいたま市立下落合小学校**で6年生を対象に、「小さな親切」運動についての授業が行われました。同校ではカリキュラム・マネジメント（学校全体でより良い教育をデザインすること）の視点として、「地域の一員としての自覚を高め、地域に目を向け地域貢献できる人へと成長する」というストーリーを掲げ、様々な教育活動を展開しています。

6年生はその集大成として、地域貢献を軸としたプロジェクトに取り組んでおり、総合的な学習の時間に地域で活動する方々が授業を行っています。親切運動の授業もその一環として設定され、**埼玉県与野支部**の実行委員3名（内田誠之郎さん、髙橋麗子さん、宮崎由紀さん）が企画・進行を担当しました。

授業はまず、**小田切倫子校長、佐藤利春教頭**による短い劇からスタート。小学生に扮したお二人の登場に、子どもたちから歓声が上がります。登校中に鼻血が出て困っている児童役の教頭先生に、同じく児童役の校長先生がそっとティッシュを差し出す場面を通して、「小さな親切」とはどのようなものかをわかりやすく伝えました。その後は、親切運動の歴史や与野支部の活動が紹介されました。

続いて、同校のオリジナルキャラクター「しんとんとん」と小田切校長が登場。しんとんとんが掲げるモットー「自分もよくて みんなもよい」の言葉は、校長先生が大切にしている教育理念の一つ。互いを尊重し、

（左から）与野支部の内田さん、宮崎さん、髙橋さん

オリジナルキャラクター「しんとんとん」

みんなが良いと思える道を考えられる人になってほしいとの想いが込められています。その第一歩として、身近なところで「小さな親切」を実践する大切さが伝えられました。

授業の最後には、「小さな親切」をテーマにした作文を書く宿題も出されました。きっと、この日の学びやこれまでの体験などを振り返りながら、一人ひとりが親切について考えを深めてくれることでしょう。

与野支部は、旧与野市（現：さいたま市中央区）の8つの小学校区ごとに会員が活動し、PTAと連携しながら「小さな親切」運動を展開。古くから、〝地域で子どもたちを育てよう〟との意識を持つ方が多いエリアです。複数の学校で勤務経験のある小田切校長先生も、「この地域の方々は特に温かい」と話されていました。

子どもたちにとっては、地域の方々の温かさ、自分たちの住む街の魅力を改めて見つめ直す機会にもなったのではないでしょうか。